

氏 名	藤本 将平
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 甲第 6100 号
学位授与の日付	令和 2 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 機能再生・再建科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Clinical feasibility of auditory processing tests in Japanese older adults: a pilot study (高齢者における聴覚情報処理検査の臨床応用)
論文審査委員	教授 光延文裕 教授 阿部康二 准教授 寺田整司

学位論文内容の要旨

【目的】高齢者における中枢性聴覚機能低下を評価しようと試みた。

【方法】耳鼻咽喉科外来で高齢者 20 名の聴覚情報処理検査を行った。また若年成人コントロール 20 名のデータと比較した。単音節語音明瞭度検査と認知機能評価も実施した。

【結果】聴覚情報処理検査の各検査項目で、高齢者は若年者よりも成績が悪かった。語音明瞭度 80%以上の高齢者や MMSE28 点以上の高齢者に限っても、若年者との差は有意だった。検査結果には天井効果がみられたが、今回の検査では早口音声聴取検査が最も天井効果が小さく、被験者の個人差を反映しうるものだった。

【考察・結論】高齢者での聴覚情報処理検査の結果には、蝸牛レベルでの感音難聴、中枢性聴覚機能、認知機能の 3 者が関係すると考えられ、今後さらに各因子の寄与の多変量解析等での検討が望ましい。当科では今後、早口音声聴取検査等に項目を絞り、高齢者を対象に聴覚情報処理検査を行う方針である。

論文審査結果の要旨

高齢者の難聴において、中枢性聴覚機能低下は重要な病態の一つと考えられ、その評価方法として、聴覚情報処理検査が有用であることが報告されている。しかし、本邦（日本語）での先行研究はほとんどみられない。

本研究では、若年成人 20 名をコントロールとして、耳鼻咽喉科外来で高齢者 20 名の聴覚情報処理検査を行った。聴覚情報処理検査の各検査項目で、高齢者は若年者よりも成績が悪かった。検査結果には天井効果がみられたが、早口音声聴取検査が最も天井効果が小さく、被験者の個人差を反映しうるものだった。

委員から、本論文における研究デザイン、考察の妥当性についての指摘があった。本研究者は、それらについて研究経緯に基づいて回答するとともに、補足説明を行った。

本研究は、我が国における高齢者難聴の病態に基づいた診断について、重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。